国立大学法人愛媛大学及び国立大学法人高知大学
共同入札監視委員会定例会議議事概要

<table>
<tr><td>開催日及び場所</td><td colspan="2">令和８年１０月１９日（月）１５：００～１７：００
愛媛大学本部第３会議室（愛媛大学本部管理棟１階東）</td></tr>
<tr><td>委　　員</td><td colspan="2">委員長　高見 泰弘
（国立大学法人香川大学施設環境部長）
委員　　安藤 潔（弁護士）
委員　　山邊 彰三（公認会計士）</td></tr>
<tr><td>審議対象期間</td><td colspan="2">令和７年４月１日～令和８年３月３１日</td></tr>
<tr><td>抽出案件（合計）
工　事（小計）
一般競争入札
(政府調達に対する指定工事)
一般競争入札
（上記工事を除く）
工事希望型競争入札
通常指名競争入札
随　意　契　約
設計・コンサルティング業務（合計）
最低価格落札方式</td><td>６件
４件
１件
３件
０件
０件
０件
２件
２件</td><td>（備考）
今回の審議対象期間においては，再苦情の申立て及び同審議依頼はなし。
各大学の審議対象案件についての概要を説明したのちに、抽出案件の個別審議について各発注機関の担当者から説明を行い，質問に対して回答した。
高知大学公正入札調査委員会からの報告を受けた。</td></tr>
<tr><td>委員からの意見・質問，それに対する回答等</td><td>意見・質問
別紙のとおり</td><td>回答
別紙のとおり</td></tr>
<tr><td>委員会による意見の具申又は勧告の内容</td><td colspan="2">特になし</td></tr>
</table>

別紙

質　　問	回　　答
Ⅰ．愛媛大学 **１．国立大学法人愛媛大学において発注した建設工事及び設計・コンサルティング業務について** （愛媛大学から報告・説明）	
・入札辞退の理由は何か。	・他工事の受注が決定し、配置予定技術者を確保できなくなったことが主な理由である。
・一者応札案件については原因分析が重要と考えるが、入札しなかった事業者への聞き取りは行っているか。	・辞退届が提出された案件については理由を把握しているが、競争参加資格確認申請書の提出が無かった事業者への聞き取りは実施していない。
・一者応札となった案件について、参加可能事業者数が限定されるような特殊工事であったのか。	・工事内容は一般的なものであり、参加資格を満たせば参加可能な案件であった。
・紙産業イノベーションセンター関係工事について、公告から開札までの期間が他の案件より短い理由は何か。	・経済産業省の補助金事業であり年度内完成が必要であり、工期確保のため可能な範囲で公告から開札までの期間を短縮している。
２．建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議 **（１）一般競争入札方式** **愛媛大学（津田山）日常生活訓練施設外壁等改修工事**	
・同種工事である別案件では同一事業者が本件よりも高い落札率の価格帯で入札を行っているが、それよりも本件がさらに低い価格となった理由は何か。	・本案件については受注を強く希望しており、利益や共通費を圧縮して入札したものと考えられる。 また、一般的に、発注時期が早い案件ほど

別紙

	事業者の受注意欲が高く、協力会社の確保や調整も行いやすいため、競争性が高まる傾向にある。
・低入札理由書に記載された「企業努力による共通費削減」は、必ずしも具体的な理由になっていないのではないか。	・低入札価格調査の結果、事業者からは「企業努力による共通費削減」を低入札の理由として説明を受けている。当該記載は、直接工事費を圧縮して下請事業者へ負担を転嫁したものではなく、自社の経費及び利益を圧縮した結果であることを示したものと考えられる。
・低入札ではあったが、品質は確保され施工がされたということでよいか。	・工事品質、完成時期ともに問題はなかった。
（２）一般競争入札方式 **【愛媛大学（樽味）農学部三科実験室等改修機械設備工事】**	
・２回目の入札で辞退した事業者について、辞退届は徴取しているか。また、その辞退理由は何か。	・２回目の入札を行わなかった事業者からは辞退届を徴収しているが、辞退理由の確認は実施していない。ただし、電子入札システム上、１回目の入札後にその時点の最低入札額が参加事業者へ示されるため、価格面で競争が困難と判断し、２回目の入札を見送ったものと考えられる。
・再入札の実施回数について、上限は定められているのか。	・再入札は原則として２回までとしているが、入札状況に応じて追加の再入札を実施する場合がある。具体的には、２回目の入札額と予定価格との差額を勘案し、次回の入札で落札に至る見込みがあると判断した場合には３回目の入札を実施している。また、３回目の入札においても同様に落札の見込みがあると判断した場合には、４回目の入札を実施することがある。

別紙

・本件において再入札を複数回実施した理由について、発注者が優越的な地位を利用した価格交渉と受け取られるおそれがあるが、その点についてどのように考えているか。	・本件については、予定価格との差が小さく、落札に至る可能性が高いと判断したため再入札を複数回実施した。
・一者のみとなった後も再入札を継続したことについて、競争性の確保という観点で問題はないか。	・電子入札システム上では参加事業者の辞退状況は開示されず、入札者は他の参加事業者の状況を把握できない仕組みとなっているため、競争性は確保されている。
（３）一般競争入札方式 **【愛媛大学（持田（附小中特））基幹・環境整備（空調設備）設計業務】** ・特になし	
Ⅱ．高知大学	
１．国立大学法人高知大学において発注した建設工事及び設計・コンサルティング業務について （高知大学から報告・説明）	
・最低価格者ではない事業者が落札している案件があるが、総合評価落札方式において両者の評価にどのような違いがあったのか。	・施工実績や工事成績等の評価の差によるものである。総合評価落札方式においては、価格だけでなく各種評価項目を総合的に評価することから、入札金額による順位が逆転する事例は一定の頻度で発生している。
・辞退者が多い案件が見受けられるが、主な理由は何か。	・他工事の受注に伴う技術者不足が主な理由である。また、近年は特に電気工事において参加事業者の確保が難しい状況にあり、市や県による工事発注の増加も影響しているものと考えられる。

別紙

・入札参加事業者の確保が難しい状況に対し、どのような対策を講じているのか。	・入札参加事業者の確保を図るため、参加資格要件について、等級区分の拡大や対象地域の拡大など、条件の緩和を行っている。
２．建設工事及び設計・コンサルティング業務における抽出案件の審議 **（１）一般競争入札方式** **【高知大学（朝倉）総合研究棟（情報系）新営その他電気設備工事】**	
・低入札価格調査については、実施概要に記載された調査を行い、特段の問題が認められなければ契約を締結する運用となっているのか。また、具体的な取引実績等の確認も行っているのか。	・ヒアリングを通じて履行意思を確認した上で、低価格で入札できる理由に関する資料の提出を求めている。資材の調達方法や取引先との関係など、低価格となった要因を確認し、契約内容の履行が可能であることを確認したうえで契約している。また、現在の取引状況や過去の施工実績についても資料により確認している。
（２）一般競争入札 **【高知大学（医病）外来診療棟等改修機械設備工事】**	
・見積合せを複数回実施しているが、発注者の優越的立場による価格交渉と受け取られる懸念はないか。見積合せの経緯について、後日説明できるよう記録を残しておくべきではないか。	・見積合せの実施にあたっては、事業者と協議の上で応諾を得ながら進めており、事業者側も見積額を段階的に調整している。内訳を確認しながら、価格低減の余地があると考えられる項目について事業者と協議を行い、事業者が了承できる範囲で段階的に見積額の見直しを行った。当初の入札内訳書と最終見積書を比較することで、見直しが行われた項目を確認することができる。

別紙

（３）一般競争入札方式 **【高知大学（小津他（附属小中特））基幹・環境整備（空調設備）設計業務】**	
・近年、一者応札案件が継続しているが、将来的に入札そのものが成立しなくなる懸念はないか。	・技術者不足や受注案件の集中により設計事務所の確保が難しくなっているのが実状である。
・地域要件の拡大などにより、入札参加事業者を増やすことは考えていないのか。	・既に等級区分や対象地域の拡大により、参加資格要件は可能な範囲で緩和している。これ以上条件を広げると再公告時の対応余地が少なくなることから、現状の条件設定としている。なお、対象案件の規模を踏まえると、対象地域をさらに拡大した場合でも遠方事業者の参加は必ずしも見込めず、中四国地域からの参加が中心になるものと考えている。
Ⅲ．国立大学法人愛媛大学及び国立大学法人高知大学共同入札監視委員会要領の一部改正について （事務局より説明） ・特になし	
Ⅳ．来年度以降の審議対象工事・業務の抽出方法について （事務局より説明） ・特になし	